

ちいさな文字

文字表現におけるルビの視覚的効果についての研究

天野研究室

213047 齋藤 紗葉

1 研究テーマ

文字表現におけるルビの視覚的効果についての研究

本文中のルビが読者の「読む」という行為にどのような影響を与えるのかについての研究
また、ルビ自体についての研究

2 動機

大学の日本文化論の講義にて、日本語の当て字の文化を取り上げた講義を受け、「ふりがな」に興味を持った。講義後に自主的にふりがなについて調べ、そこで「はっきり」という読みに対して当てられたふりがなが複数あることを知る。

「判然」- 夏目漱石『硝子戸の中』

「明瞭」- 小栗虫太郎『黒死館殺人事件』

「爽快」- 国木田独步『富岡先生』

など

ここから、読みと漢字が一致しないという事象に面白さを漢字、本格的にルビに興味を持つようになった。

また、3年後期の表現にて、日本語についての問題（「日本語の消滅」と「漢字健忘」）から、[※]タイポグラフィ作品を制作し、ここから日本語についての作品を作りたいと考えた。

「日本語の消滅（言語の消滅）」の観点から日本語という言葉を見たとき、日本語は現在英語などを片仮名に置き換え日本語化することによって進化しているように見える。しかし、このとき同義の意味を持つという理由で英語に置き換えられた日本語は消滅の一途を着実に進んでいるのではないかという考えを持った。言語の性質として、他言語を母語に組み込もうとした際に、母語は将来的に消滅する、という考えから、「日本語」という日本の文化を構築している言語を大切にしたいと思うようになった。

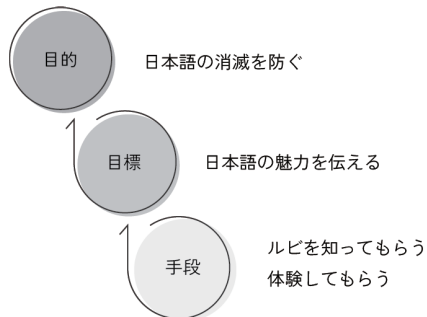
日本語特有のふりがな（ルビ）という文化は「日本語を進化させつつ、退化しないようにする」ことに対して大きな役割を果たせるのではないかと考え、ルビを知ってもらい、ルビのちからを体験してもらえらる作品を作りたい、と考え、「ちいさな文字」を制作する。

※ 表現デザイン演習Ⅱ作品 「わす - れる」



3 研究目的

ルビを通して、日本語及び日本語組版の魅力を伝える。
ルビの持つ力を通し、私たちが普段「読む」という行為に
対しどのように文字記号を捉えているのかを知ってもらう。



読者にとって読みやすい、或いはルビを可読性という面で効果的に使用する組版を目指すものではない。

ルビそのものに興味を持ってもらい、振り仮名という日本語特有の文化から日本語話者にとって当たり前にある「日本語」という文字記号を改めて認識してもらうこと、またそこから振り仮名が文章表現に与える影響を作品として前面に出すことを目指す。

4 内容

- 1 JIS の日本語組版の規定や日本エディタースクールの「文字の組方ルールブック」などを参考に、ルビの使用方法をまとめ、文章中にあるルビ群がその文章の中でどのような役割を果たしているのかを研究する。
- 2 今までにないルビの在り方を研究し、制作した冊子

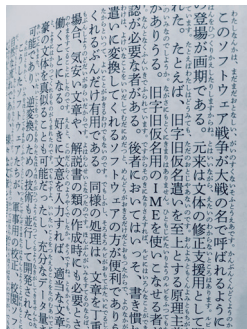
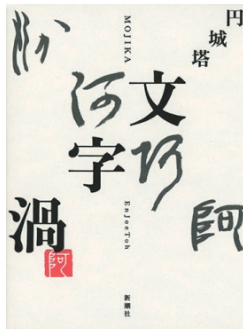
組版のルールは印刷会社によって異なるため、より標準的な組版のルールを公開しているエディタースクールの冊子と、JIS での規定から特にルビについて記載されたものを参考にしている。

ルビ自体に興味を持ってもらうためには、今まで通りの組版に従った文ではインパクトや面白さが足りないと考え、「今までにないルビの使い方」を考えた。

組版のルールを大きく逸脱することなく新しいルビの在り方を模索することで、「当たり前ではないこと（ルビの新しさ）」がより強調されるようにしている。

5 先行事例

円城塔 「文字渦」 - 新潮社
収録作「誤字」



6 作品概要

研究の内容に添って、冊子を2冊制作する。

2冊制作する理由

読者（見る側）が当たり前と当たり前から逸脱したものを比較できるように2種類制作した。

日本語の組版には厳密なルールが多く存在し、その中でルビは親文字やそれ以外の文字、行間など、周囲からの影響を受けやすい文字である。ルビは活版印刷において生まれた用語であるということもあり、振り仮名ではなくて「ルビ」というものに焦点を当てるのであれば、「組版」という面からの視点も必要であると考えた。

ちいさな文字の使い方

JISの日本語組版の規定や日本エディタースクールの「文字の組方ルールブック」などを参考に、ルビの使用方法などをまとめた本。

組版ルールについては印刷会社それぞれ固有のものがあるため、簡便ルールブックという形で制作する。

製本

B5 サイズ / 無線綴じ

表紙：コート紙 225kg

本文：マットコート 110kg

5

グループルビ

条件
ルビ文字列は、ベタ組とする。
ルビ文字列が欧文用文字や連数字の場合は、ルビ文字列をそれぞれの文字の固有の字幅に応じて配置する。
親文字群は、複数行に分割しない。

親文字とルビ文字の位置関係

- ・ルビ文字列が一文、欧文用文字または連数字
ルビ文字列をそれぞれの文字の固有の字幅に応じて配置し、ルビの文字列の中心を親文字列の中心に合わせて配置する。
- ・ルビ文字列が2文字以上
・親文字列長がルビ文字列長以上
・欧文用文字でもなく連数字でもない

ヨコ
コ
小
x:y:z=1:2:1

- ※ : 親文字列の先頭からルビ文字列の先頭までの空き量
- ※ : ルビ文字間の空き量
- ※ : ルビ文字列の最後尾から親文字列の最後尾までの空き量

グループルビや熟語ルビ (p.18) はルビ文字が親文字列に対して平均的に振られるようにする。

グループルビはいつ使う？

グループルビは、「読み方を親文字ごとに分割できない語」に対して使う。熟字訓などの当て字、翻訳された言葉の原語も親文字に振るときに使用される。基本的には親文字→文字→文字に読みが当てられる場合はモノルビで処理をした方がよい。

五月雨
あまふり
在処
許嫁

情 緒
感情
編織

- ・親文字列長がルビ文字列長未満
・欧文用文字でもなく連数字でもない

ヨコ
コロフォン
奥付
x:y:z=1:2:1

- ※ : ルビ文字列の先頭から親文字列の先頭までの空き量
- ※ : 親文字間の空き量
- ※ : 親文字の最後尾からルビ文字列の最後尾までの空き量

親文字列が行頭 / 行末にある場合は、以下の配置方法にしてもよい。

行頭 親文字列の先頭とルビ文字列の先頭を揃えて配置する。 Y:Z=1:1
行末 親文字列の最後尾とルビ文字列の最後尾を揃えて配置する。 X:Y=1:1

行頭 行末

親文字列が欧文用文字または連数字の場合

親文字列を文字の固有の字幅に応じて配置し、親文字列の中心をルビ文字列の中心に合わせる。

ブック
book
インデックス
index

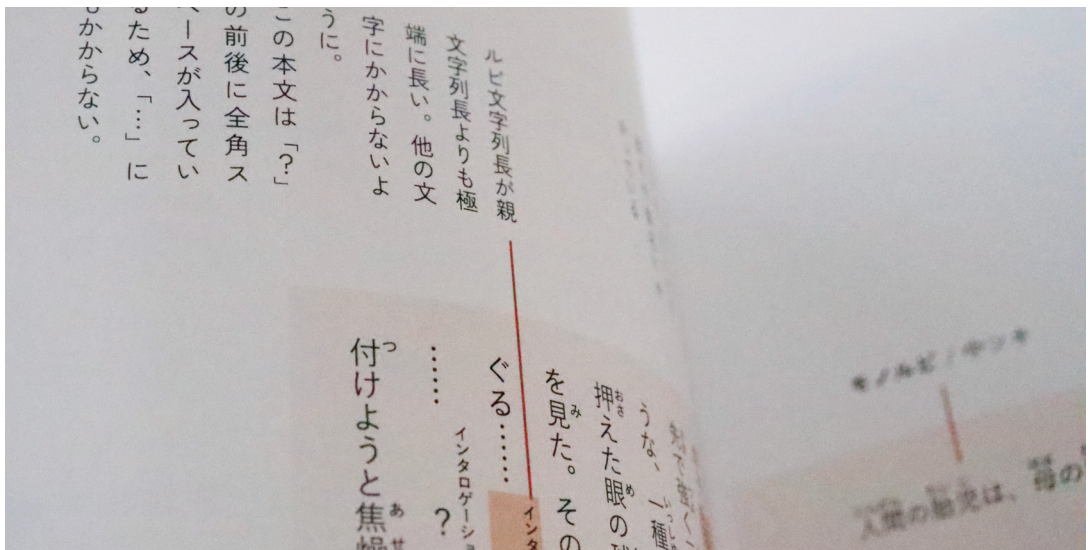
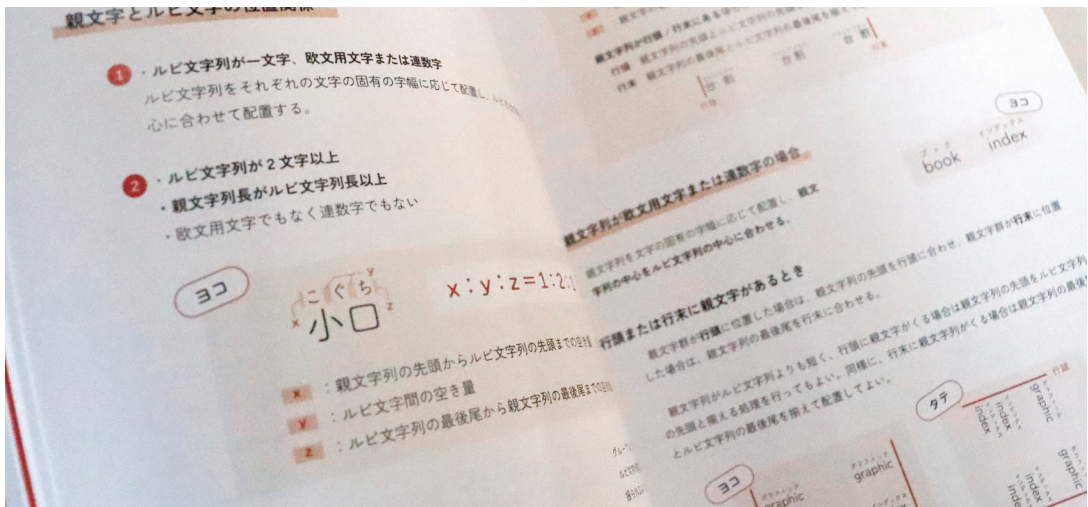
行頭または行末に親文字があるとき

親文字群が行頭に位置した場合は、親文字列の先頭を行頭に合わせ、親文字群が行末に位置した場合は、親文字列の最後尾を行末に合わせる。

親文字列がルビ文字列よりも短く、行頭に親文字がある場合は親文字列の先頭もルビ文字列の先頭と揃える処理を行ってもよい。同様に、行末に親文字がある場合は親文字列の最後尾とルビ文字列の最後尾を揃えて配置してもよい。

ヨコ
グラフィック
graphic
インデックス
index
インデックス
index
インデックス
index
行頭 行末

クテ
グラフィック
graphic
インデックス
index
インデックス
index
インデックス
index
行頭 行末



ちいさな文字たち

小説などの文章にルビをつけ、ルビが「読む」という行為にどのような影響を与えているのかを体験できる冊子。

ルビを用いた表現方法を複数パターン制作し、ルビのちからを多方面から捉えられるようにする。また、日本語の言語としてのおもしろさや、日本語の言語としてのおもしろさにも触れられる冊子にする。

各冊子内容

- 1 親文字を白にすることにより、音のみで構成された冊子
- 2 親文字＝漢字 / ルビ文字＝ひらがな（カタカナ）という認識を逆転させ、親文字＝ ひらがな（カタカナ） / ルビ文字＝漢字にした冊子。
- 3 ルビ文字群が、イメージの補足、或いは親文字群の補足になっている冊子

製本

A3 / B5 / 200*200 の大きさの冊子を制作

表現方法ごとに製本方法を変える

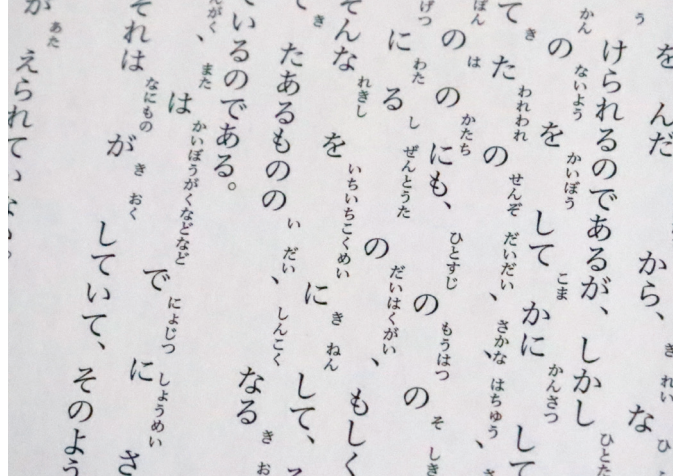
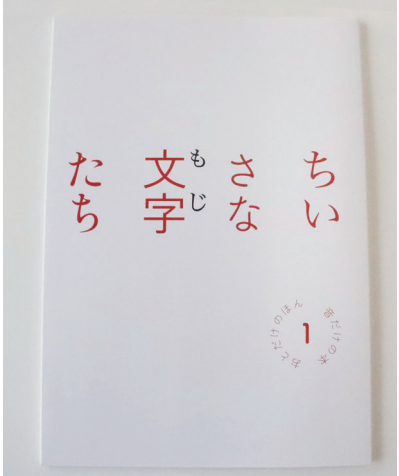
→ 糸綴じ、無線綴じ、蛇腹製本

3冊を梱包し、一冊の本として扱う

- 1 表紙：ペルーラ スノーホワイト
本文：ガルバス CoC
- 2 NT ラシャ 無垢、濃赤
- 3 表紙：ヴァンヌーボ VG ホワイト
本文：アラペール ホワイト
裏打：てまり 朱

はっきり — ルビ文字
明瞭 — 親文字

- 1 親文字の部分が空白になることによって、そこにあったはずの漢字を想像しながら本文を読むことができるのではないかな。
- 2 絵本からインスピレーションを受けて制作。漢字を正確に読むために音を付与する工程を逆転させると、文字記号を捉えるときに思考（読むという行為）にも逆転などの影響を与えられるか。
- 3 ルビの役割を拡張する試み。



感想 ルビを配置する際にできるアキも含めて、不自然な文字列によるリズムが視覚的に面白い。
動機で紹介した「明瞭」など、当て字に対して親文字を想像することが難しく、読者が筆者の
意図を想像することを楽しめるのではないかな。

問題 総ルビにしたときの文章より空白があることで、煩雑さが少し緩和されるかと考えていたが、
文字を追うために視線が微妙に左右に揺れるため、読みづらさを感じた。

胎児は母の胎内に在りて、外界に対する感覚から完全に遮断されているために、深い深い睡眠と同様の状態に在る。その間に於て、胎児の全身の細胞は盛んに分裂し、繁殖し、進んで、「一帯に八閭へ人間へ」と進みつつ……先づ代が進化した。またその時の記憶を繰返しつつ、その当時の情景を次から次へと胎児の意識に反映させつつある。しかもその胎児は、前世の通り、母胎によつて完全に外界の刺激から遮断されていると同時に、極めて平順、順調に保たれて行くために、ほかの事は全く考えなくてよい。ただ一心に「人間へ人間へ」という夢一つを守つて行けばよいので、その夢の内容も亦極めて順調、正確に、精細なきわめつつ移りかわつて行く。この点が、勝手気ままな、奔放自在な成人の夢と違つてゐるところである。

これを逆に説明すれば、胎児を創造するものは、胎児の夢である。そして胎児の夢を支配するものは細胞の記憶力という事になる。すべての胎児が母胎内で進化する道程と、これに要する時間とは共通一定しているのはこのためで、現在の人類が、或る共通の祖先から進化したために、細胞の記憶、即ち「胎児の夢」の長さも共通一定しているからである。又その無数数億、もしくは数十億年に戻るべき「胎児の夢」が、僅に十幾月の間に見られるのも、前世の細胞の記憶を参照すれば、決して怪しむべき事ではないので、進化の歴史の深い動物の胎児の記憶が、完全に記憶かいは、そんな胎児の進化の思い出しが比較的簡単だからである……だから「胎児」は「何」等の進化もしていない下等動物になつたと然「胎児の夢」を有さない。祖先そのままの姿で一瞬の間に分裂、繁殖して行くという理由も、ここに於て容易く首肯される筈である。

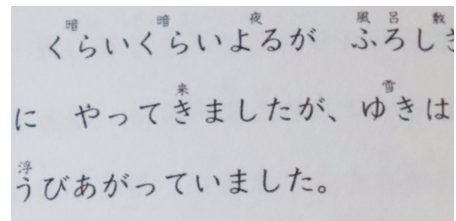
胎児は母の胎内に在りて、外界に対する感覚から完全に遮断されているために、深い深い睡眠と同様の状態に在る。その間に於て、胎児の全身の細胞は盛んに分裂し、繁殖し、進んで、「一帯に八閭へ人間へ」と進みつつ……先づ代が進化した。またその時の記憶を繰返しつつ、その当時の情景を次から次へと胎児の意識に反映させつつある。しかもその胎児は、前世の通り、母胎によつて完全に外界の刺激から遮断されていると同時に、極めて平順、順調に保たれて行くために、ほかの事は全く考えなくてよい。ただ一心に「人間へ人間へ」という夢一つを守つて行けばよいので、その夢の内容も亦極めて順調、正確に、精細なきわめつつ移りかわつて行く。この点が、勝手気ままな、奔放自在な成人の夢と違つてゐるところである。

▲ ルビなし

▲ ルビあり（総ルビ）

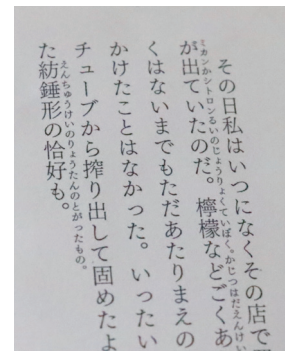
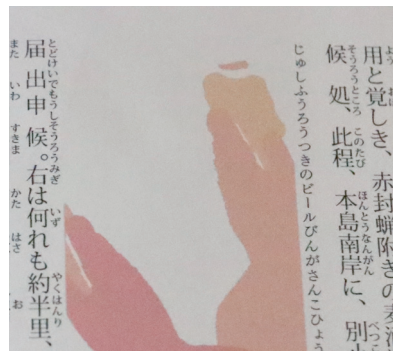
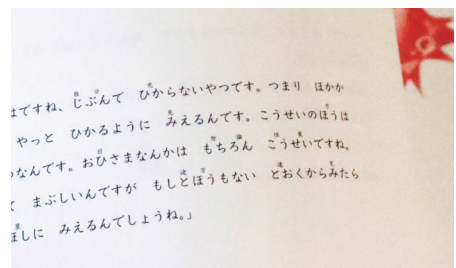
▲ 親文字なし（総ルビ）

使用：「ドクラ・マグラ」 夢野久作



感想 ひらがな、カタカナ特有の柔らかさが際立ちつつ、意味を読み取るという点で、ルビ文字によって意味（漢字）の補足があり、各単語の理解がしやすい。

問題 基本的に親文字よりもルビ文字の方が短くなることが多いため、親文字になる範囲をわかりやすく提示しづらい。

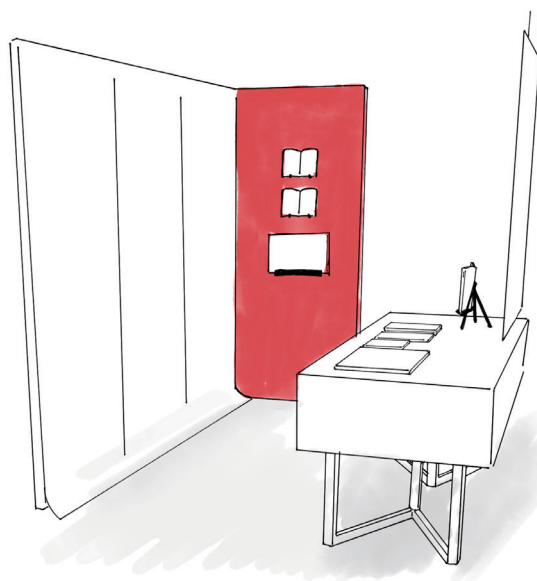
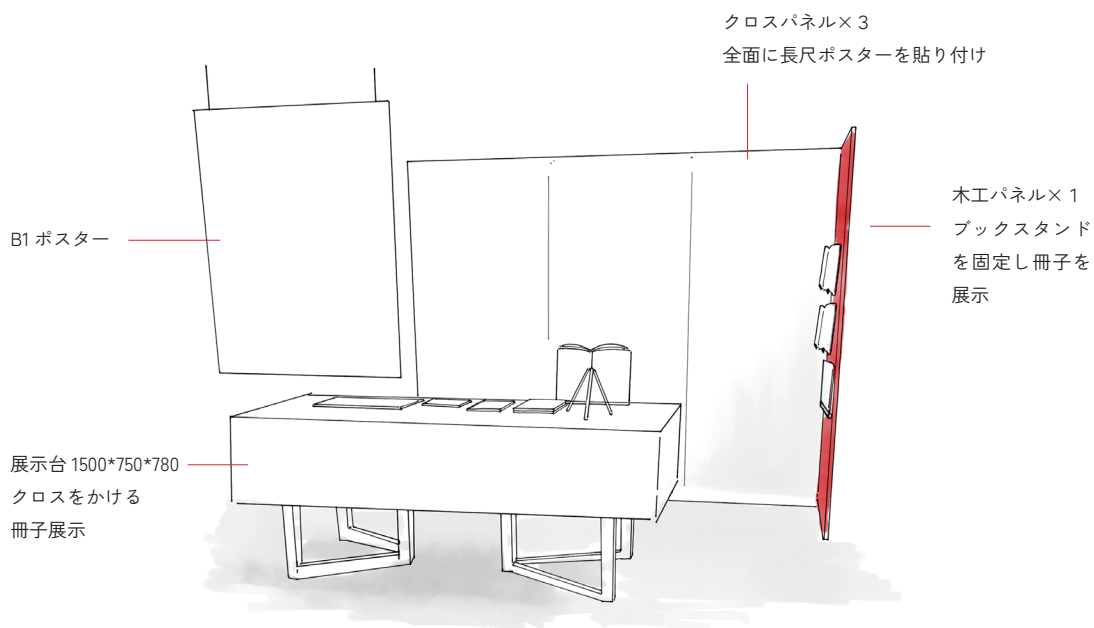


感想 ルビ文字が文章として配置されることが多く、ルビ化する文字列や親文字化するイメージに工夫すればあたらしい表現形態として面白くなるのではないかと。

問題 特に固有名詞以外の言葉などで、親文字を漢字ではない形でイメージ化することに苦戦。文章のため、ルビが対応している親文字の範囲を示すことが難しい。

- 展開**
- ・各冊子の問題点を踏まえて、ルビを主軸とした新しい組版ルールの構築
 - ・パッケージなど、冊子（文章）でないものに対して、新しいルビの在り方の提案

7 展示



8 参考文献

『日本語が消滅する』

山口仲美 幻冬舎

三省堂 辞書ウェブ編集部による ことばの壺

第14回 総ルビがよさそうだけれど...—小学生向け辞書を選ぶ観点(2) ふりがな (ルビ)

https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/column/kok_nyumon14

三鷹市山本有三記念館館報第10号 2014.3

https://mitaka-sportsandculture.or.jp/_files/00003414/report_10.pdf

石井勲の漢字教室 1 | 私の漢字教室

第三部 国語国字問題 私見

第15章 当用漢字表のねらい

http://www.ishii-miraikan.com/kanjikyokuiku/contents/15_11_45_01.pdf

読み書き「同時学習」か「分離学習」か—石井方式を阻む閉鎖性—【野口芳宏「本音・実感の教育不易論」第33回】

<https://kyoiku.sho.jp/205875/>

「なぜ、“ひらく”のか」への考察 鷹野雅弘

<https://note.com/swwwitch/n/n105a095c0687>

漢字とひらがな、どちらを選ぶべき？ 当て字表記に気をつけよう | 小説の書き方講座

幻冬舎ルネッサンス <https://www.gentosha-book.com/method/novel/hiragana-kanji/>

ルビ財団

<https://rubizaidan.jp/>

漢字誤用の分析

—総合コミュニケーション能力の育成を目指して—

広島大学総合科学部 盧濤

日本語における漢字の役割について

—英語・中国語との情報量による比較から—
横原恭士

ルビの役割

—その多様性と文章表現による働き—
吉田敬

ルビをつけよう

名古屋文化短期大学 田中政幸

振り仮名の現代的類型とその機能

国際基督教大学 渡辺鉄太 佐々木真

JIS X 4051 : 2004

日本語文書の組版方法 Formatting rules for Japanese documents

文字の組方ルールブック

日本エディタースクール